

2019年3月期 決算説明資料



2019年6月

株式会社 **かわでん**



証券コード：6648

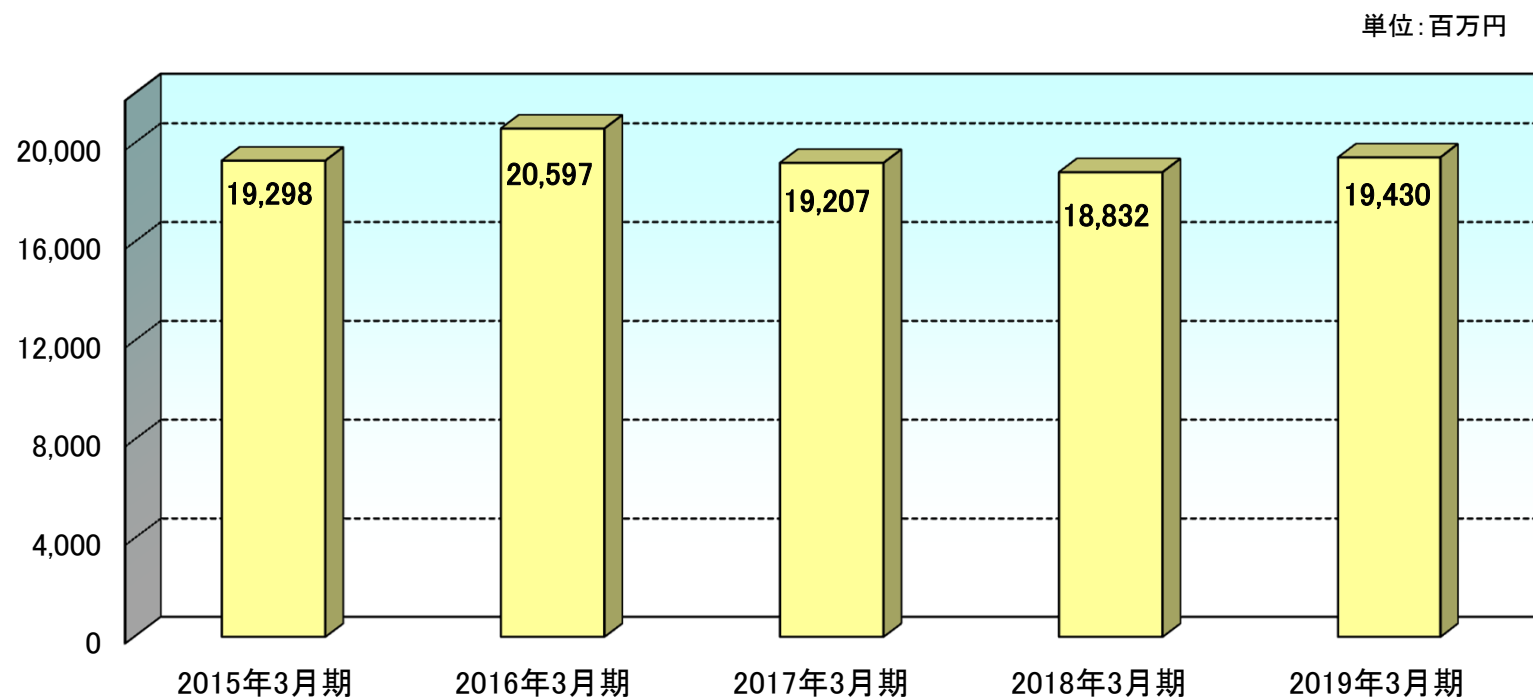
◆目次

【 2019年3月期 決算説明資料 】

・ 売上高の推移	P 3	・ 当社の競争優位性について	P 2 5
・ 経常利益の推移	P 4	・ 生産技術	P 2 6
・ 当期純利益の推移	P 5	～一貫生産ラインによる柔軟な生産方式～	
・ 純資産額の推移	P 6	・ 営業体制	P 2 7
・ 総資産額の推移	P 7	～お客様満足度120%達成への挑戦～	
・ 1株当たり純資産額の推移	P 8	・ 財務基盤	P 2 8
・ 1株当たり当期純利益の推移	P 9	～高い自己資本比率～	
・ キャッシュ・フローの状況	P 1 0	・ 納入実績	P 2 9
・ 配当の状況（1株当たり配当金）	P 1 1	～トップメーカーとして築いてきた貴重な財産～	
・ 2020年3月期の業績予想	P 1 2	・ 今後の重点施策	P 3 0
・ 【 参考資料 会社案内 】		・ マーケットシェアの拡大～かわでんファンの拡大	P 3 1
～当社の製品 事業領域及び競争優位性～		並びにM&A等による事業規模拡大～	
・ 会社概要(1)	P 1 4	・ リニューアル事業の強化～リニューアル比率の向上～	P 3 2
・ 会社概要(2)	P 1 5	・ 製品開発の強化(1)～お客様ニーズに	P 3 3
・ 会社概要(3)	P 1 6	対応した製品開発並びに新規顧客の開拓～	
キュービクル式非常電源専用受電設備の形式認定		・ 製品開発の強化(2)～お客様ニーズに	P 3 4
・ 会社概要(4) 沿革①	P 1 7	対応した製品開発並びに新規顧客の開拓～	
・ 会社概要(5) 沿革②	P 1 8	・ 株式情報	P 3 5
・ 会社概要(6) 企業理念	P 1 9		
・ 業績の概要	P 2 0		
・ 取扱い製品について	P 2 1		
・ 配電制御設備市場における活動領域	P 2 2		
・ ガス型配電制御設備業界の状況について(1)	P 2 3		
・ ガス型配電制御設備業界の状況について(2)	P 2 4		

※本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

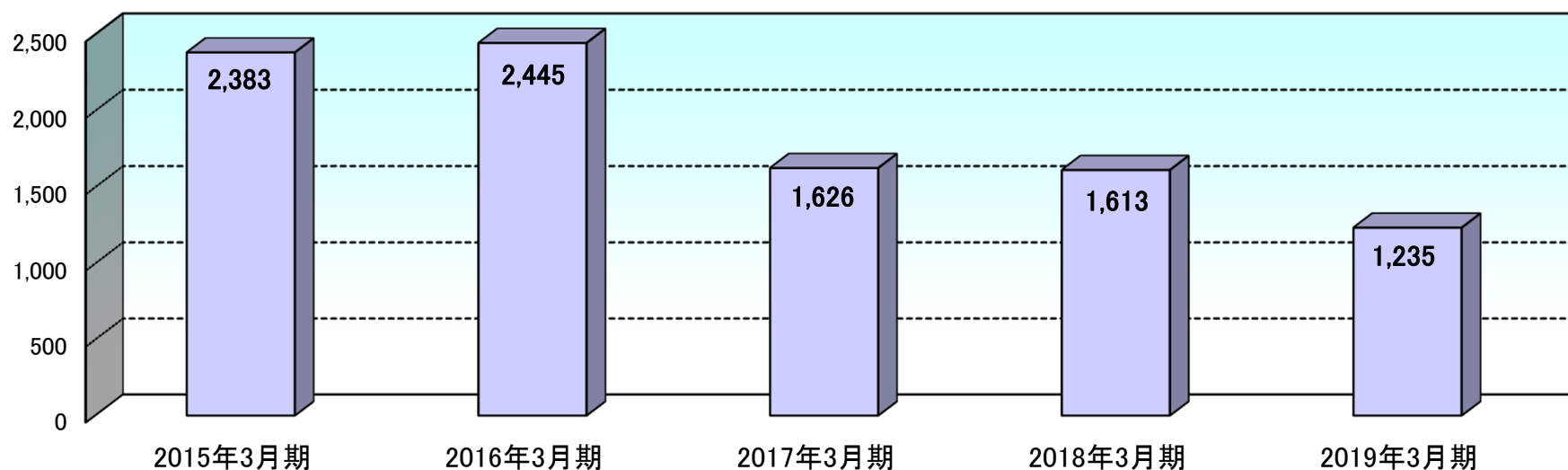
◇売上高の推移



首都圏ではオフィス・商業施設の更新など民間設備投資は緩やかながらも増加傾向が継続しておりますが、その一方で労務費や資材価格の上昇に加え受注価格競争は依然厳しい状況が継続しております。このような厳しい状況下で、当社は社員一丸となり、顧客満足度を最優先に全力を傾注し営業活動を展開いたしました。これにより売上高は19,430百万円（前期比3.2%増）となりました。

◇ 経常利益の推移

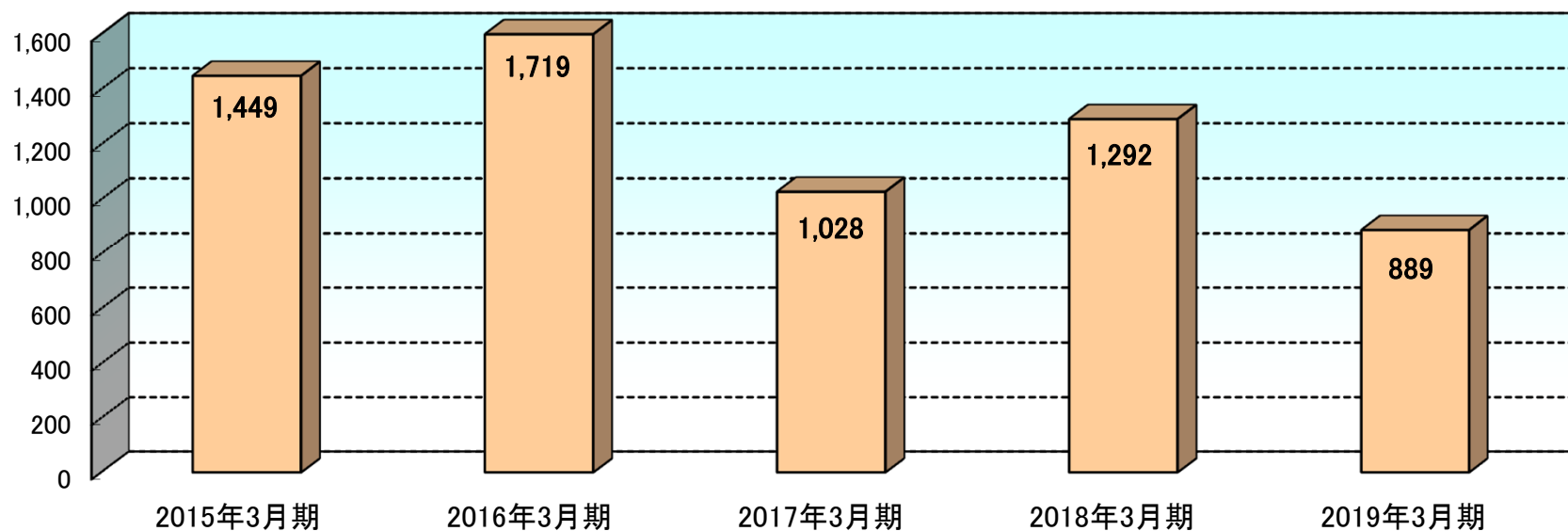
単位: 百万円



利益につきましては、受注・価格競争の激化により粗利益率が低下したことにより、経常利益は1,235百万円(前期比23.5%減)となりました。

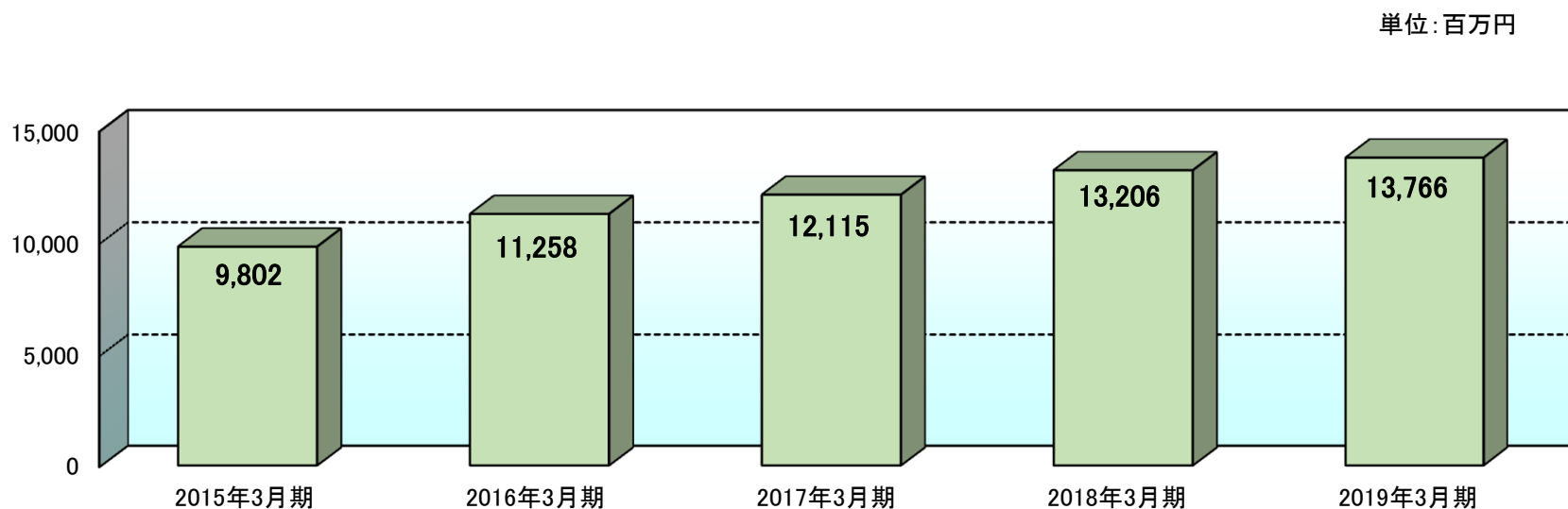
◇当期純利益の推移

単位: 百万円



当期純利益は、889百万円（前期比31.2%減）となりました。

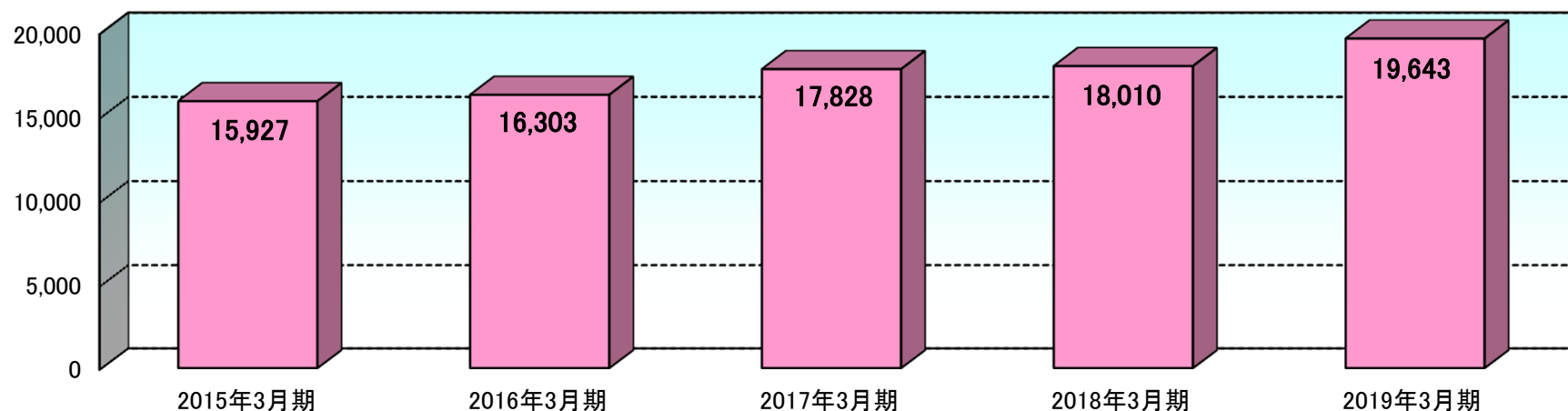
◇純資産額の推移



純資産額は、前事業年度の期末配当144百万円及び当事業年度の中間配当128百万円があったものの、当期純利益889百万円の計上により利益剰余金が617百万円増加いたしました。これらの結果、純資産合計は前事業年度末比560百万円(4.2%)増加し、13,766百万円となりました。

◇総資産額の推移

単位：百万円

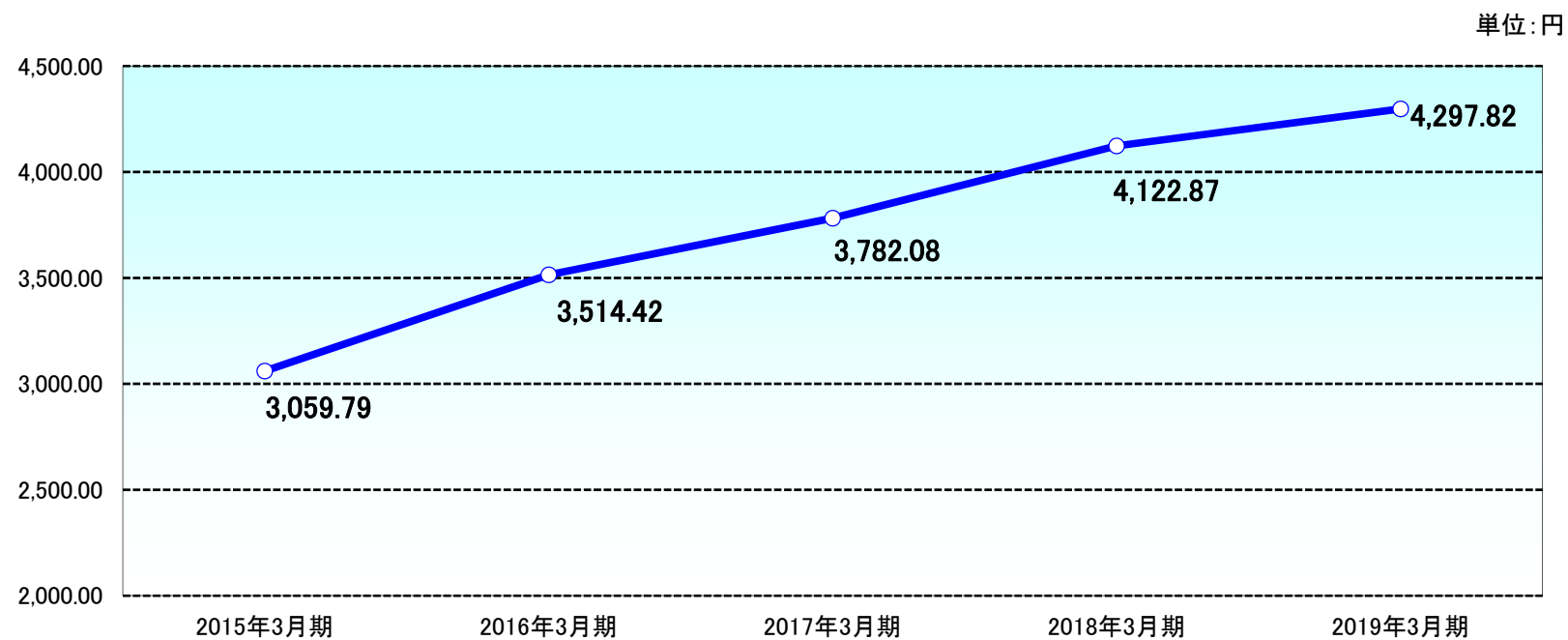


流動資産については、売掛金が442百万円減少及び受取手形が428百万円減少したものの、現金及び預金が860百万円増加、電子記録債権が779百万円増加いたしました。これらの結果、流動資産合計は前事業年度末比1,452百万円(10.4%)増加し、15,353百万円となりました。

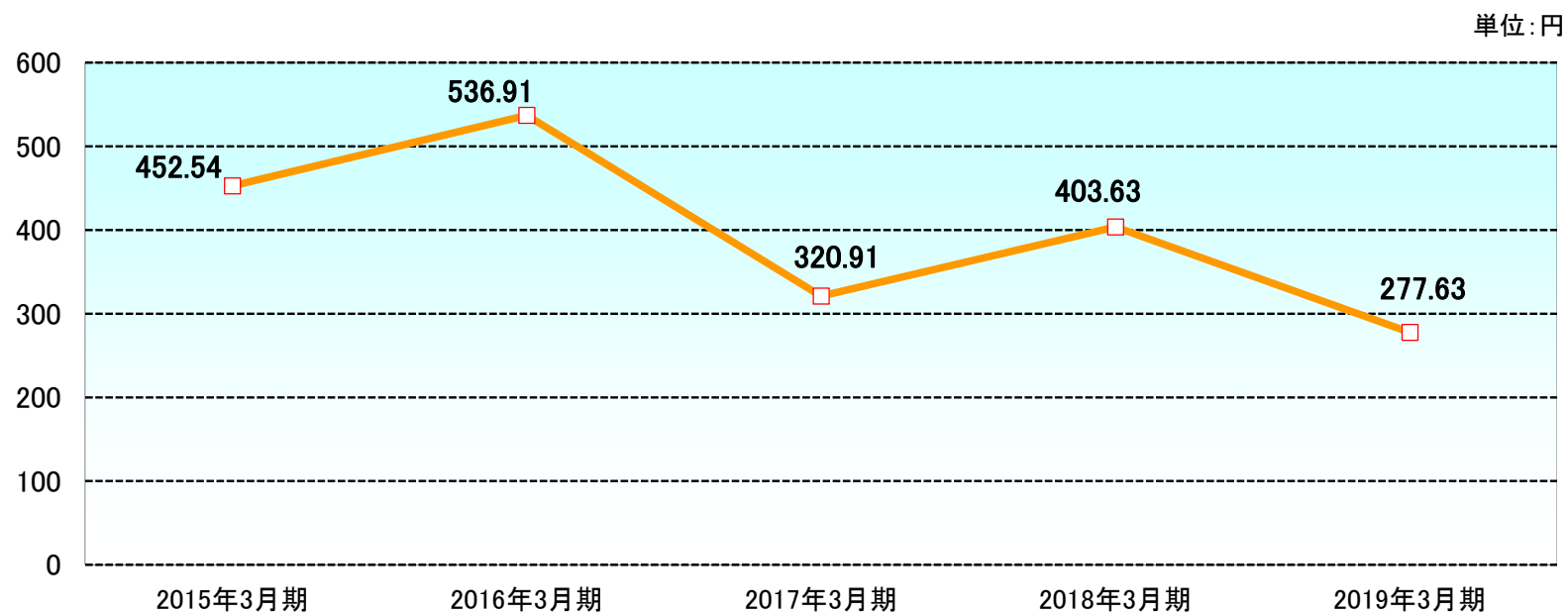
固定資産については、ソフトウェアの増加などにより無形固定資産が94百万円増加したことに加え、投資有価証券の増加などにより投資その他の資産が78百万円増加いたしました。これらの結果、固定資産合計は前事業年度末比180百万円(4.4%)増加し、4,289百万円となりました。

これらの結果、総資産は前事業年度末比1,632百万円(9.1%)増加し、19,643百万円となりました。

◇ 1株当たり純資産額の推移



◇ 1株当たり当期純利益の推移



◇キャッシュ・フローの状況

単位：百万円

	2018年3月期	2019年3月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,082	1,463
投資活動によるキャッシュ・フロー	△378	△465
財務活動によるキャッシュ・フロー	△153	△136
現金及び現金同等物期末残高	7,873	8,733

〔営業活動によるキャッシュ・フロー〕

当事業年度における営業活動による資金の増加は1,463百万円となりました。これはたな卸資産の増加額732百万円など資金の減少があったものの、税引前当期純利益の計上1,234百万円など資金の増加があったことによるものであります。

〔投資活動によるキャッシュ・フロー〕

当事業年度における投資活動による資金の減少は465百万円となりました。これは山形工場及び九州工場における板金設備の更新及び、全社的なシステム更新などに伴う有形固定資産の取得による支出284百万円などの資金の減少があったことによるものであります。

〔財務活動によるキャッシュ・フロー〕

当事業年度における財務活動による資金の減少は136百万円となりました。これは長期借入れによる収入350百万円の資金の増加があったものの、長期借入金の返済による支出279百万円及び配当金の支払額271百万円など資金の減少があったことによるものであります。

◇配当の状況(1株当たり配当金)

	2018年3月期	2019年3月期	備考
第1四半期末	—	—	
第2四半期末	35円	40円	
第3四半期末	—	—	
期末	45円	40円	
年間	80円	80円	

当社は株主への利益還元を重要な経営課題の一つに掲げており、将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保の確保を考慮し、かつ安定的な配当を行うことを目標としたうえで利益に応じた中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としております。

2019年3月期の配当につきましては、中間配当として1株当たり40円を実施し、期末配当は1株当たり40円として年間80円となっております。

◇2020年3月期の業績予想

単位:百万円

	第2四半期累計期間	通 期
売上高	9,750	19,500
営業利益	575	1,150
経常利益	570	1,140
当期(四半期)純利益	370	740
1株当たり当期(四半期)純利益	115.51円	231.02円
1株当たり配当金	40円	80円

2020年3月期の業績予想につきましては当社の優位性を一層強化し営業展開を行い、売上高を19,500百万円といたしました。

利益につきましては、受注・価格競争がより一層激しさを増していくことが見込まれることから営業利益1,150百万円、経常利益1,140百万円、当期純利益740百万円を予想しております。

また、配当につきましては1株当たり中間配当40円、期末配当40円の年間配当80円を予想しております。

※上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としております。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

参 考 資 料

会社案内

～当社の製品 事業領域及び競争優位性～

◇会社概要(1)

商号	株式会社かわでん
英文表記	KAWADEN CORPORATION
代表者	代表取締役社長 信岡 久司 代表取締役専務取締役 光藤 淳一
所在地	本 社 山形県南陽市小岩沢225 東京本社 東京都港区港南3-8-1 5階
創設年月日	1926年(大正15年)3月1日
設立年月日	1940年(昭和15年)6月20日
会社の目的	1)電気機械器具の設計、製作、販売 2)電気材料ならびに建築材料の販売 3)電気工事の設計、監理ならびに電気に関する機械器具の取付工事請負 4)電子機器、無線通信機用部分品の設計、製作、販売 5)その他前各号の目的を達成するに必要な事業ならびに出資
発行可能株式総数	14,400,000株
資本金	2,124,550,000円(2019年3月31日現在)
発行済株式の総数	4,192,000株
単元株式数	100株

◇会社概要(2)

建設業の許可

許可番号	国土交通大臣許可(般一27)第5661号
許可年月日	2015年11月29日
建設業の種類	電気工事業

通知電気工事業者通知

整理番号	関東東北産業保安監督部長み通 第19001号
通知の年月日	2007年8月7日
電気工事の種類	自家用電気工作物

ISOの認証

ISO9001	山形工場、九州工場
ISO14001	山形工場

◇会社概要(3) キュービクル式非常電源専用受電設備の形式認定

認定番号	形式		受電設備容量範囲(kVA)
共用第22号	PF・S形屋外用	300	151～300
共用第23号	PF・S形屋外用	150	1～150
共用第116号	CB形屋外用	500	301～500
共用第117号	CB形屋内用	500	301～500
共用第403号	CB形屋外用	300	151～300
共用第404号	CB形屋内用	300	151～300
共用第496号	CB形屋外用 機械換気装置有	1000	751～1000
共用第497号	CB形屋内用	1000	751～1000
共用第837号	CB形屋外用 機械換気装置有	750	501～750
共用第838号	CB形屋内用 機械換気装置有	750	501～750
共用第849号	CB形屋外用	150	1～150
共用第850号	CB形屋内用	150	1～150
共用第956号	CB形屋外用 機械換気装置有	2000	1501～2000
共用第957号	CB形屋内用 機械換気装置有	2000	1501～2000
共用第958号	CB形屋外用 機械換気装置有	1500	1001～1500
共用第959号	CB形屋内用 機械換気装置有	1500	1001～1500

◇会社概要(4)

沿革①

1926年3月	川崎電気商会を東京都目黒区原町に創業者 川崎 勇により創立
1940年6月	川崎電気株式会社設立
1945年10月	本社を現在地に移転
1962年11月	山形県に本社を置く企業としての初の上場 (東京証券取引所市場第二部)
1994年4月	佐賀県佐賀市大和町に九州工場完成
1996年12月	山形工場がISO9001の認証取得
1997年1月	九州工場がISO9002の認証取得(2003年12月よりISO9001へ移行)
1998年2月	山形工場がISO14001の認証取得
2000年9月	民事再生手続開始の申立てを行なう
2000年12月	上場廃止
2001年7月	民事再生法に基づく再生計画の認可決定が確定
2001年8月	100%減資と同時に18億円の第三者割当増資を行ない新生川崎電気株式会社 のスタートを切る
2002年7月	再生債権の弁済を行い民事再生手続が終結

◇会社概要(5)

沿革②

2004年8月	ブランド名「KAWADEN」と商号の統一を図るため、 『株式会社かわでん』に商号を変更
2004年11月	日本証券業協会に株式を店頭登録
2004年12月	日本証券業協会への店頭登録を取消し、ジャスダック証券取引所に 株式を上場
2005年9月	山形工場検査棟増設
2006年6月	山形工場カチオン電着塗装設備稼働開始
2007年8月	九州工場板金工場棟増設
2008年8月	山形工場第2検査棟増設
2010年4月	ジャスダック証券取引所と大阪証券取引所の合併に伴い、大阪証券取引所 JASDAQ(現 大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード))に上場
2013年7月	東京証券取引所と大阪証券取引所の統合に伴い、東京証券取引所JASDAQ (スタンダード)に上場
2016年6月	山形工場新塗装ライン稼働開始
2017年12月	東京本社 東京都港区港南へ移転

◇会社概要(6)

企業理念

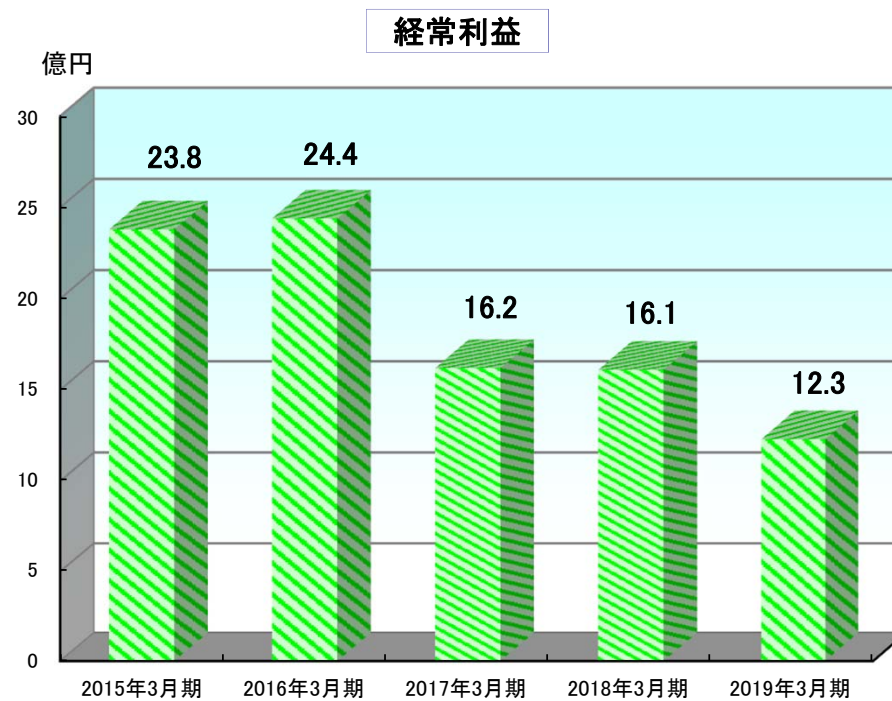
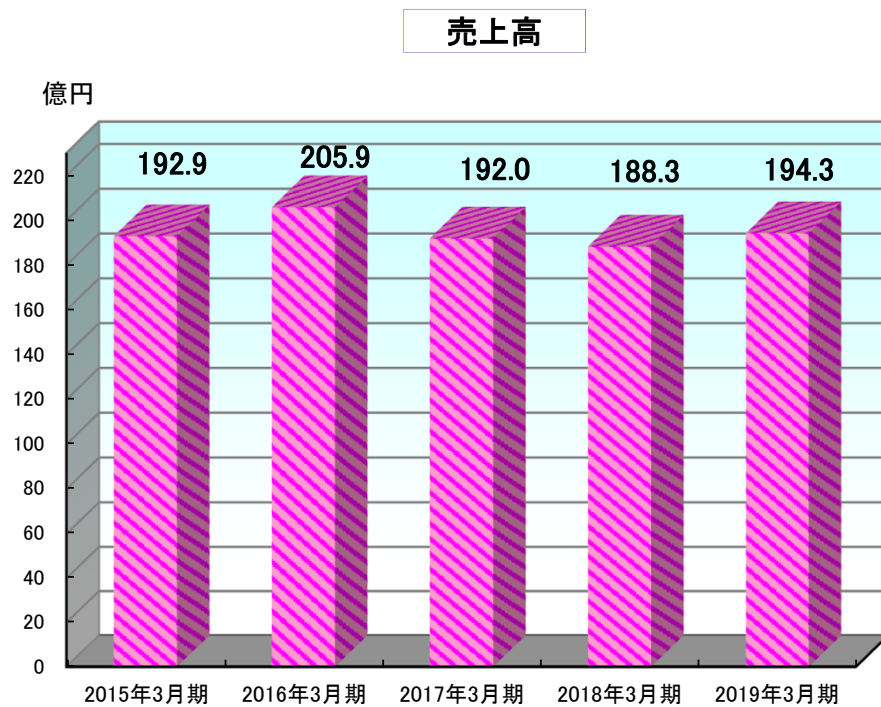
弊社は「電気に生きる－電気とともに発展する社会と共生し、人々の暮らしに貢献する」という創業の理念を基に、配電制御にかかわる様々なシステムをご提供しています。

1926年3月に創設されて以来、配電制御設備専門のリーディング・カンパニーとして、コンサルティング、設計、製造、販売、アフターサービスの一貫事業体制を日本で最も早く構築。高品質で信頼性の高い製品の開発と、充実したサービスを追及してきました。

90年の歴史の中で営々と積み上げてきた納入実績は、業界トップクラス。

日本各地のランドマークとなっている著名な建築物、官公庁・地方自治体の施設、地域再開発など数々の大型プロジェクトを、＜ **かわでん** ＞の配電制御システムが陰で支えています。

◇業績の概要

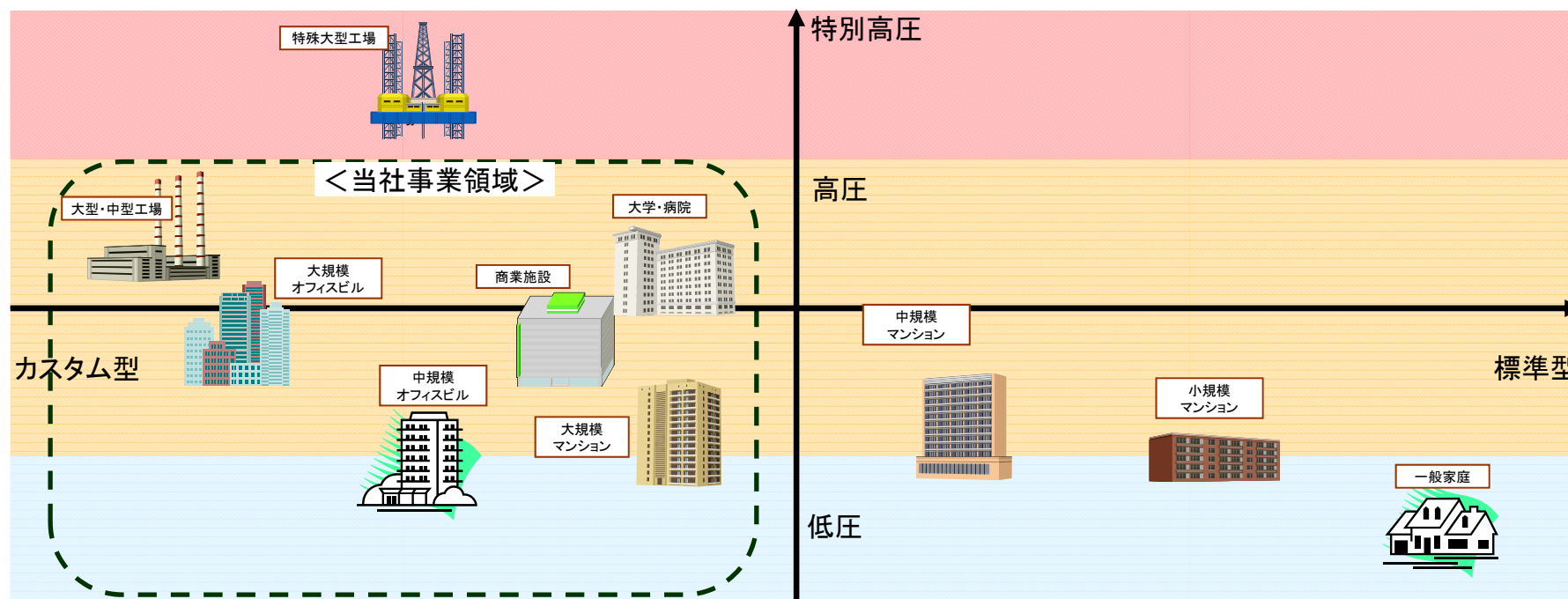


◆取扱い製品について

当社製品は電力会社から送られてくる電気を様々な機器に使える電圧に変圧、分岐するために使われています。



◇配電制御設備市場における活動領域



カスタム型の高圧・低圧市場が中心

市場規模

- 配電制御設備全体のマーケット規模は約6,389億円(※1)。
- そのうち、カスタム型高圧・低圧市場は約1,020億円(※2)。

市場の特徴

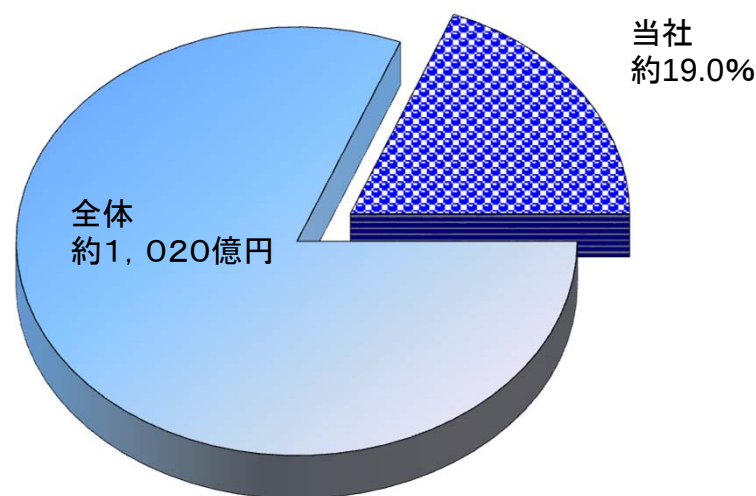
- カスタム型高圧・低圧市場は上位10社が市場の約7割を占める。
- その他下請企業も含めると2,000社を超える中小企業がある(※3)。
- 当社はカスタム型高圧・低圧市場の大手専門メーカー。

※1. 出典「経済産業省生産動態統計」より2018年度開閉制御装置（配電制御設備）の生産実績
 ※2. 民間調査会社による競合会社売上実績より当社推定

※3. 業界団体である日本配電制御システム工業会の正会員は約350社（2019年3月時点）。

◇カスタム型配電制御設備業界の状況について（１）

カスタム型配電制御設備市場規模
並びに当社シェア



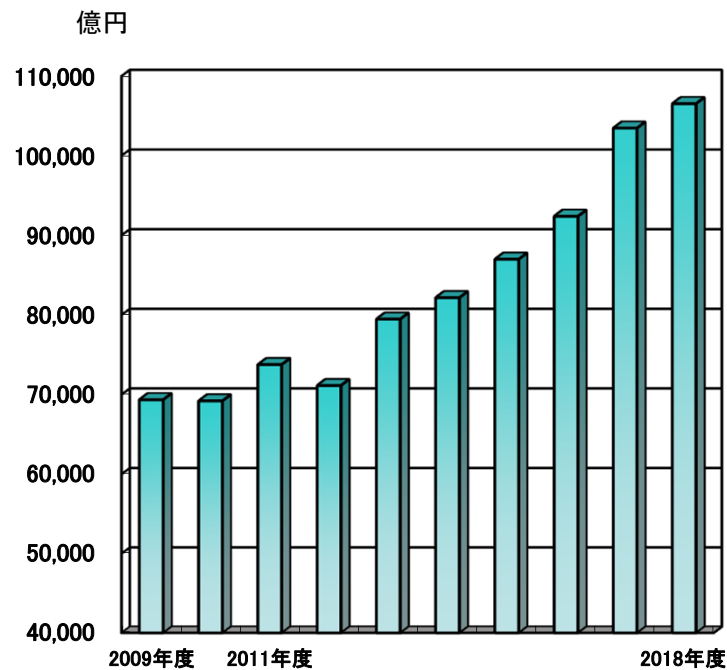
- カスタム型配電制御設備の市場規模についての公式データはありませんが、民間信用調査機関のデータ等から推測しますと約1,020億円前後ではないかと思われます。

このことから当社の市場シェアは19.0%前後と推測しております。

- 当社以外に専門メーカーで株式を上場している企業はありません。また、年間売上高が100億円を超えている企業は当社を除くと1社のみと思われます。

◇カスタム型配電制御設備業界の状況について（2）

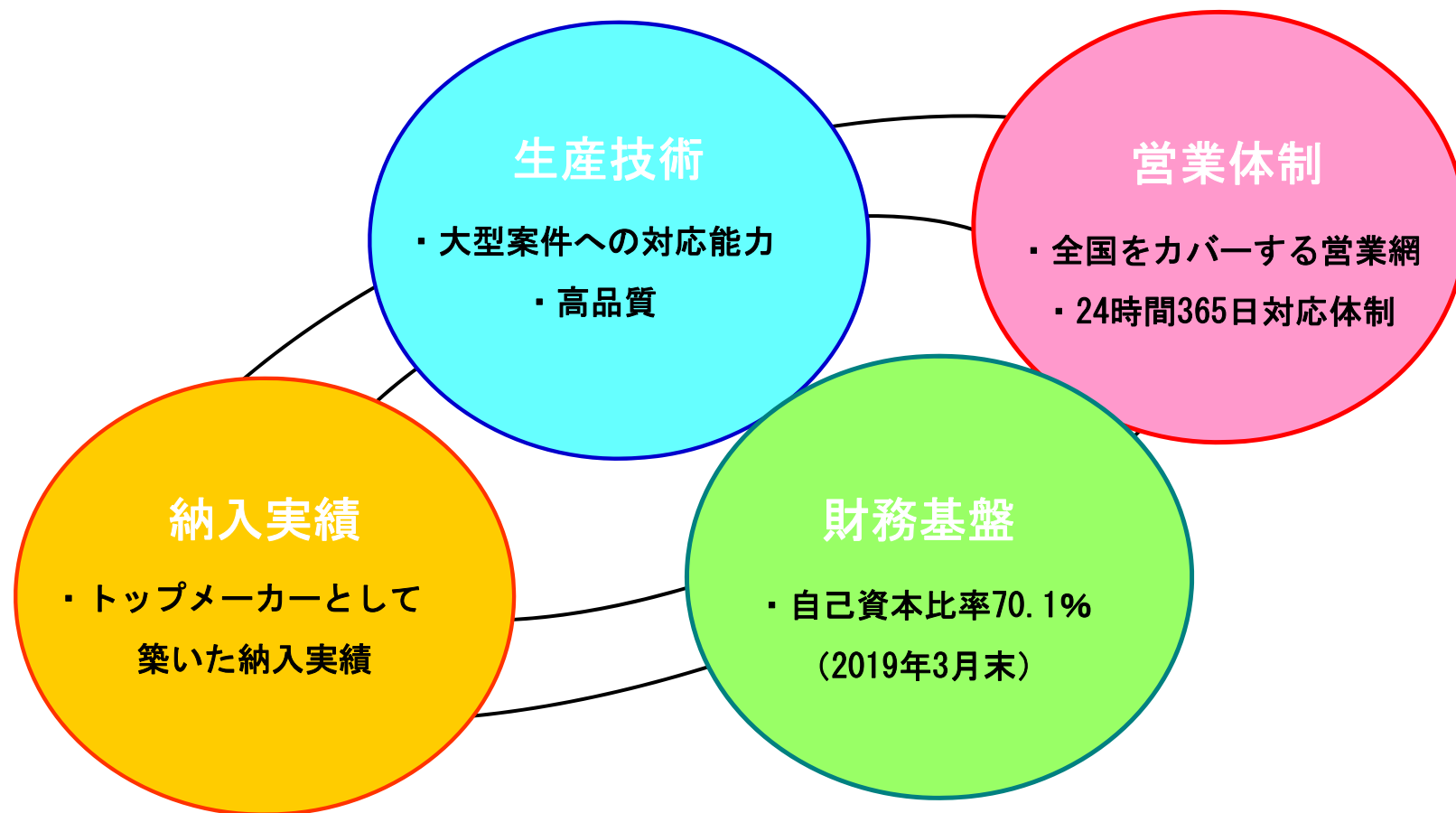
民間非住宅建築投資額



国土交通省「建設総合統計」

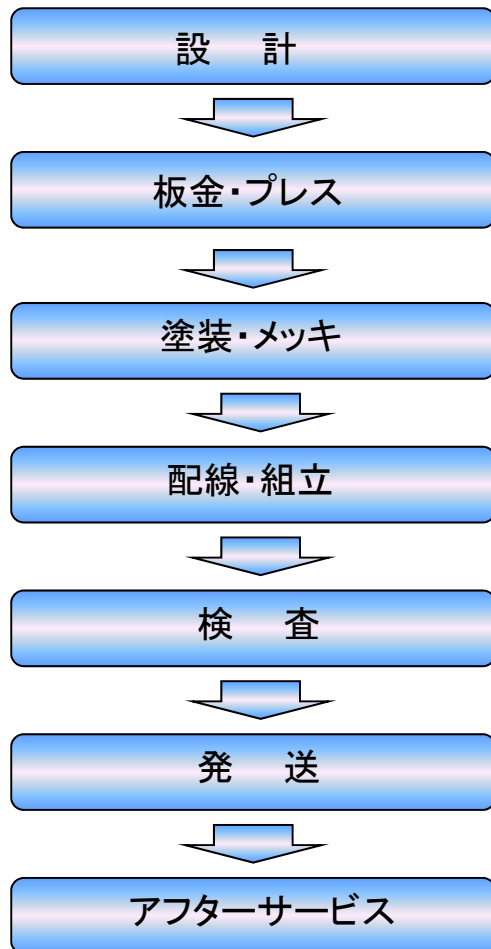
- 現状、当社製品の納入施設は大型マンションを除いて多くが民間非住居用施設であり、当社の業績は国内の建設業界なかんずく民間非住宅建築投資の動向に強く影響を受けております。
民間非住宅建築投資は、2011年度より回復し、増加傾向での推移が継続しております。

◇ 当社の競争優位性について



◇生産技術 ～一貫生産ラインによる柔軟な生産方式～

配電制御設備の生産工程



- 大型案件に対応可能な、業界トップクラスの生産能力を誇る工場を有しております。
さらに2020年度、山形工場に新塗装工場の建設を予定しており、増産体制の構築を計画しております。
- 永年積み重ねてきた生産方式に日々改善を重ね、業界屈指の高品質、高生産性を誇る工場になっていると自負しております。
- 設計、板金から組立までの一貫生産ライン保有による柔軟な生産体制を構築し、多様な顧客ニーズに対応しております。
- 山形、九州両工場ともに国際標準化機構の品質保証規格であるISO9001を取得しております。なお、山形工場においては環境関連規格であるISO14001も取得しております。

◇営業体制 ～お客様満足度120%達成への挑戦～

全国をカバーする営業網

2019年6月現在



- 日本全国をカバーする営業網を有しており、お客様へのサービスに万全を期すべく365日・24時間連絡可能なアフターサービス体制を構築しております。

工場との連携を高め、お客様からのクレーム撲滅に努めており、高品質の製品を常に心がけ、お客様から厚い信頼を戴いております。

- お客様からのクレーム未然防止のため、社内で発見された製品上の不備・欠陥等については、軽重を問わず即日社長に報告され今後の防止策を含めた対策を講じる体制を敷いております。

◇財務基盤 ～高い自己資本比率～

	2017年 3月期	2018年 3月期	2019年 3月期
純資産額(百万円)	12,115	13,206	13,766
総資産額(百万円)	17,828	18,010	19,643
自己資本比率(%)	68.0	73.3	70.1

- お客様における財務信用力による発注先選別の動きが活発になってきつつあります。当社は自己資本比率70.1%(2019年3月末)に示されているとおり強固な財務基盤を有しております。
- 当業界は、受注から製品出荷までに通常6ヶ月以上の期間がかかるため、お客様は出荷までの間に発注先が倒産等の不測の事態に陥らないように、発注時に発注先の財務内容をチェックすることが多くなっております。

◇納入実績 ～トップメーカーとして築いてきた貴重な財産～

1966年度～2018年度
の当社納入実績

6,672億円

- 昨今、ビル等において「老朽化」以外に「グレードアップのためのリニューアル」、「OA化等による消費電力の増加に対応したリニューアル」等の案件が増加傾向にあります。
- リニューアル案件は、既存設備との兼合いから既存の納入会社へ発注になることが多く、かつ新規案件と比較して一般的に高い利益率を確保できます。当社はこれまでトップメーカーとして築いてきた圧倒的な納入実績を誇っており、これが貴重な財産となっております。

◇今後の重点施策

業界内での存在感を一層高め、
『 **盤業界のオンリーワン**（唯一の存在） 』を目指し、
下記の施策に積極的に取り組んで参ります。

マーケットシェアの拡大

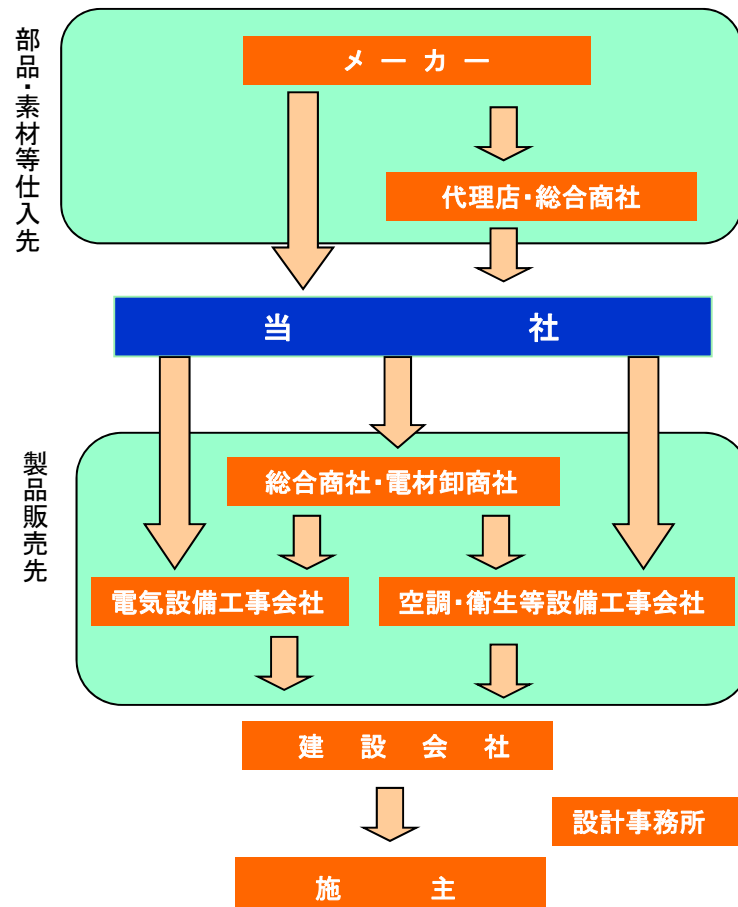
リニューアル事業の強化

製品開発の強化

◇マーケットシェアの拡大 ～かわでんファンの拡大

並びにM&A等による事業規模拡大～

事業系統図



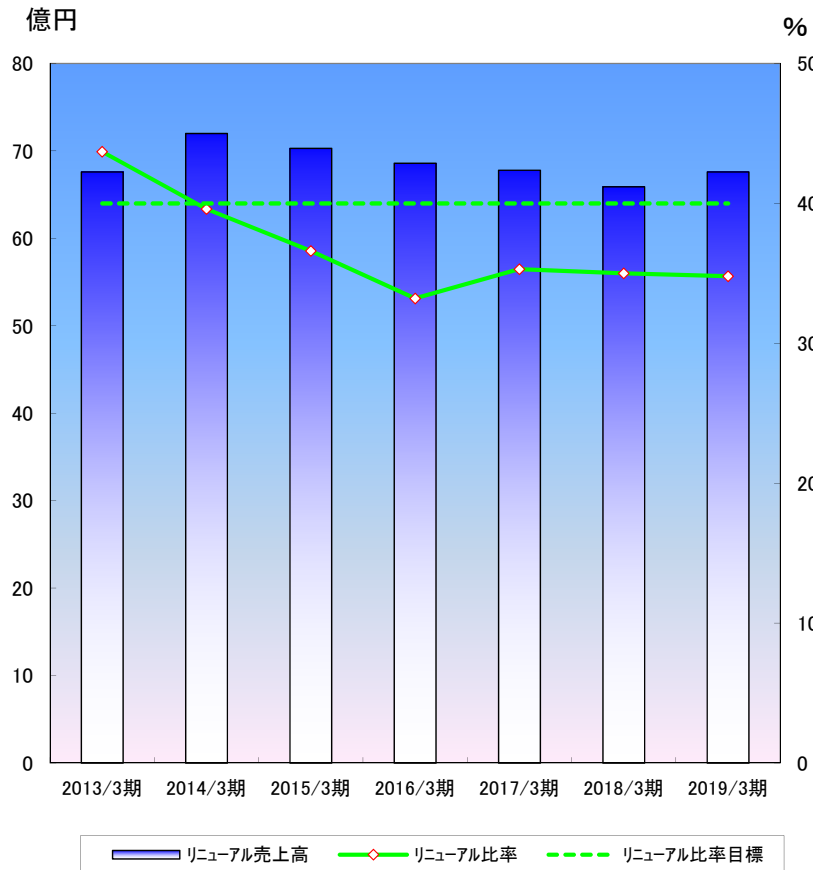
- 特定お施主様(かわでんファン)の拡大

当社の直接の販売先は主として電気設備工事会社様ですが、お施主様に対しても木目細かい対応と提案営業等を行うことにより当社を優先的に指名して頂けるお施主様(かわでんファン)の拡大を図ります。

- M&A、事業提携等による事業規模の拡大

当社の得意としない分野を補強するためのM&Aや事業提携等を検討して参ります。

◇リニューアル事業の強化 ～リニューアル比率の向上～



- 売上高に占めるリニューアル案件比率40%超への向上

新規案件の収益性が厳しい下で、安定的に収益を確保するためにリニューアル案件の比率引上げを図ります。過去の納入実績を有効に活用し、昨今増加傾向の「グレードアップのためのリニューアル」、「OA化等による消費電力の増加に対応したリニューアル」に対応するとともに積極的な提案営業等を行うことにより、リニューアル事業を強化してまいります。

❖ 製品開発の強化(1) ～お客様ニーズに対応した製品開発 並びに新規顧客の開拓～



省施工形分電盤

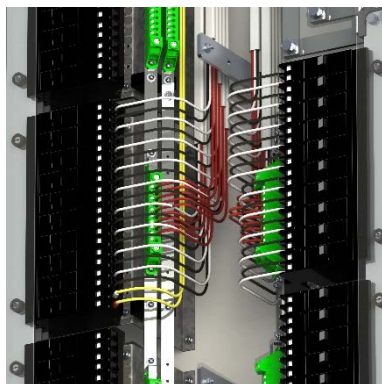
～Easy Construction type of KAWADEN～

ケーブル取込みの簡素化

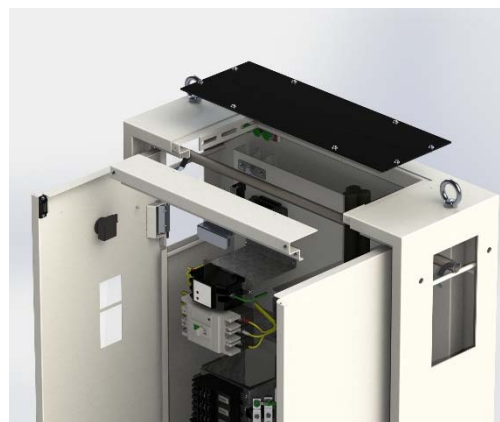
- ①前面枠取り外しによる盤前面からのケーブル取込みが可能
- ②高所作業が減り、作業の安全性向上
- ③複数人で行っていた作業が一人でも可能

二次側配線の簡素化

- ①取込んだケーブル振分け不要
- ②二次側配線はワンタッチ作業で締付けも不要
- ③ブレーカ交換も容易に可能



[VVF接続部]



[上部間口着脱部]

❖ 製品開発の強化(2) ～お客様ニーズに対応した製品開発 並びに新規顧客の開拓～



[高容量タイプPDU盤]



[サーバーラック列盤タイプPDU盤]

- iDC用電源設備の開発

インターネットの普及によるiDC (internet Data Center) の需要が増大していることに対応するため、これまでのノウハウに新たな技術を融合させ高品質のiDC向け電源設備「インテリジェントPDU盤」を開発いたしました。

当製品は、高品質な電源を24時間365日供給し続けるために、停電時でもUPS等の系統に瞬時に高速切替が可能となっております。

今後も高度な技術力を養い、お客様ニーズに対応した製品を積極的に開発してまいります。

◇株式情報

・ 上場金融商品取引所 東京証券取引所JASDAQ（スタンダード）

・ 証券コード 6648

・ 銘柄 株式会社かわでん

・ 発行済株式の総数 4,192,000株（2019年3月末現在）

・ 株式の売買単位 100株

・ 株主名簿管理人・特定口座の口座管理機関

三菱UFJ信託銀行株式会社

・ 連絡先

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

TEL 0120-232-711（フリーダイヤル）

・ 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

・ 定時株主総会 毎年6月

・ 期末配当金の基準日 3月31日

・ 中間配当金の基準日 9月30日

・ 公告方法 電子公告

（やむを得ない事由により電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。）

・ 大株主（2019年3月末現在）

富士化学塗料(株) 350,000株 10.92%

(株)光通信 257,700株 8.04%

(株)エム・アイ・ピー 209,000株 6.52%

佐藤商事(株) 115,000株 3.59%

(株)立花エレテック 108,500株 3.38%

(株)関電工 100,000株 3.12%

(株)きんでん 100,000株 3.12%

STATE STREET BANK AND 100,000株 3.12%

TRUST COMPANY 505224

（常任代理人(株)みずほ銀行）

かわでん従業員持株会 95,800株 2.99%

STATE STREET BANK AND 85,300株 2.66%

TRUST CLIENT OMNIBUS

ACCOUNT OM02 505002

（常任代理人(株)みずほ銀行）

（注）1. 上記のほか、2019年3月末現在当社所有の自己株式988,786株（23.58%）があります。

2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

本資料に関するお問合せ

株式会社かわでん IR担当

TEL 03-6433-0135

FAX 03-6433-0136

E-mail : info@mail-kawaden.co.jp